

令和2年度第3回行政評価委員会（しごと部会）会議録

1 開催日時

令和2年9月11日（金） 午後3時15分～午後5時

2 開催場所

花巻市役所本庁舎 3階 302・303 会議室

3 出席者

(1) 委員 6名

影山一男委員（部会長）、八木浩委員、高橋徳好委員、高橋誠委員、久保田廣美委員、佐藤有莉委員

(2) 説明者（施策主管課及び関係課） 1名

商工労政課：伊藤昌俊課長

(3) 事務局（施策及び事務事業担当課） 2名

秘書政策課企画調整係：小田島大介主査

財政課経営財務係：松田隆課長補佐

4 議題及び報告事項

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「商店街の再生」について評価を行った。

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

(2) 委員会の評価結果集約

5 議事録

(1) 施策主管課による説明、質疑応答【主な意見・質疑等】

高橋誠委員：歩行者数を成果指標にし続けることは難しいのではないかと。これは国等で同じように指標にしているものを参考にしているのか。

伊藤昌俊課長：国等の指標になっているかは不明。どういった指標が商店街の賑わいを示すものか、現状ある調査の中では商工会議所が行っている交通量調査がいいのでは、という考えから指標にしている。

高橋誠委員：比較的大きな町であれば、こういった指標が参考になるのかもしれないが、花巻市では車で目的地まで行って、また車で次の目的地に行くということがほとんど。継続してきた調査なので、調査自体を無くすわけにはいかないと思うが、新しい指標を検討する必要があるのではないかと。

伊藤昌俊課長：市では、総人口といったデータに加え、例えば大迫から花巻に何人動いた、石鳥谷に何人動いた、といった調査を数年前に行った。結果は花巻、石鳥谷に寄っているということが顕著になっていたが、その中で仲町や上町の居住者がかなり減ってきているという結果も出ていた。商店街の再生という面で他にどういった指標がある

のか、今後の検討課題とさせていただきたい。

高橋誠委員：駐車場の回転率は面白い指標になるのかもしれない。

影山一男部会長：やはり歩行者数を成果指標にすることに違和感がある。今後の時代の流れを考えた際に、マイナスな数値結果しか出てこないのではないかと思う。事務事業評価シートに記載の「商店街活性化イベント来街者数」といったように数値が伸びている結果もある。施策として良いことをして、良い面が出ているのに、この指標だと成果が出ていないと思われてしまう。

伊藤昌俊課長：確かに人口が減って、車で移動する人が増えて、となるとこの指標は成果として良い数値が出にくい。この指標はこの指標で持ちながら、新たな指標がないか研究したい。

影山一男部会長：施策を構成する事務事業一覧の成果が全てCになっている理由は。

伊藤昌俊課長：事務事業評価シートの「成果指標の達成度」からきているもの。目標値より低いものはCとなる。

高橋誠委員：成果指標の達成状況に記載の、調査日が雨だった、というのは理由にならないように感じる。調査自体を他の日にすることは可能なのか。

伊藤昌俊課長：商工会議所の調査は2回、平日と休日に行っている。その中で休日の方のデータを採用している。R1年度の平日の調査は7/1（月）に行っているが、その日は花巻駅前で宵宮が開催されており歩行者数は9,630人、H30年度の場合、宵宮はなく6,500人。

久保田廣美委員：リノベーション関連で新規出店につながった実績があるとのことだが、逆に店舗した後で撤退してしまった実績はあるのか。

伊藤昌俊課長：リノベーションの前から創業支援は行っているが、撤退してしまった事業者もある。

久保田廣美委員：新規出店したから支援は終わりではなく、その後のフォローも行っているということですね。

伊藤昌俊課長：そうです。

久保田廣美委員：「5 施策の総合的な評価」に記載の、市独自で行った物件調査について詳しく教えてほしい。

伊藤昌俊課長：調査については委託で行った。新規出店するにあたって出店希望者の物件の選定はほとんどが不動産業者から情報を得るものだが、出店希望者に一覧で提示できるような状態にしたもの。最終的には個々の不動産業者と交渉することになるが、その前の段階。

八木浩委員：「4 施策を構成する事務事業の検証」の新たに取り組むべき事業について、コロナ対策のことが記載されているが、これは現状国、県、市が行っている事業以外に、さらに独自に支援を行うという意味か。

伊藤昌俊課長：国の持続化給付金や家賃支援、市独自の PayPay と連携した支援、観光面では温泉利用への支援など、様々なコロナ対策、経済対策を行っている。こういった支援を継続するとともに、他の支援策も検討してまいりたい。

影山一男部会長：商店街について旧花巻地域は少しずつ改善がみられるようだが、旧3町についてはどうか。

伊藤昌俊課長：歩行者数の調査結果をみると、休日は大迫が前年比50%、石鳥谷は90%、東和は40%。平日でみると、大迫が66%、石鳥谷は80%、東和は70%と苦戦している。

影山一男部会長：そういった意味では、「4 施策を構成する事務事業の検証」に記載の、歴史ある街並みを活かした街づくりの調査検討に取り組む、といった事業が大切になってくるかと思うが具体的にどういったことを行うのか。

伊藤昌俊課長：歴史ある街並みについては、具体的には大迫地域で行う。宿場町、風情のある街並みが残っており、文化財的な視点からも価値があるものか調査しようとするもの。当初予算で2つの建物の調査分を計上していたが、補正予算でさらに4つ、合計6つの建物の調査を今年度行うこととしている。

高橋徳好委員：成果指標に関連して、例えばこの地区からの税収が上がった、ここに居住している人数が増えた、このエリアの賃貸の坪単価が上がった、といったデータはとれるものか。

伊藤昌俊課長：税収についてエリアでとったことはない。とれるかどうか、についても不明な部分がある。人口についてはある程度のエリアごとにデータをとることができる。

高橋徳好委員：極端な話、人が通ってもそこでお金を使わないと、あまり意味がないと思う。この施策の指標を考えることは難しい。工業や商業の振興であれば支援策、解決策がある程度見つけやすいが、商店街の再生となると非常に困難な問題だと思う。

佐藤有莉委員：リノベーションしても知られていないことが多いように感じている。商店街のPR、リノベーションした店舗のPR、両方とも大切。花巻にもお洒落なお店が沢山ある。若い子はそういった場所で勉強したり電車待ちをしたいし、することが多い。

(2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シートの整理】

● 「◎前年度評価の振り返り」の「反映状況」について

高橋誠委員：全体的に旧3町に関する記述が少なすぎる。旧3町でも商店街を盛り上げるために頑張っている方がいる。課題はそれぞれ違うと思うので、旧3町についてももう少し触れるべきだと思う。

影山一男部会長：関係課の欄にも大迫・石鳥谷・東和地域振興課と記載されており、事務事業評価シートにも旧3町の事業に関する記載がある。市民目線で見ると、施策評価シートにも記載が必要と思う。

● 「3 成果指標の達成状況」の「達成状況に関する背景・要因」について

影山一男部会長：この指標自体がそもそもどうなのか、といった議論がなされたとおおり、分析はできているが指標の妥当性に関しては多くの委員から疑問が出ている、ということではよろしいか。

全委員：よし。

● 「4 施策を構成する事務事業の検証」について

久保田廣美委員：目標値に達していないためCという成果になっているが、事業の必要性やCだった理由についての記載があってもいいのではないか。成果はCだが、貢献度は決して低くない、ということを伝えた方がいいと思う。

影山一男部会長：確かに、事務事業の成果が全てCだと、やらなくてもいいのでは、と思われるかもしれない。成果は低くても貢献度は高い、難易度が高い、達成までに時間がかかる、といった具体的な説明や事業の必要性に関する記述があった方がいい。よろしいか。

全委員：よし。

● 「5 施策の総合的な評価」について

影山一男部会長：必要なことは記載されているように思うが、いかがか。

全委員：よし。

● 「シート記載内容全般」について

高橋誠委員：旧3町に関する記載が少ない、という点については触れた方がいいと思う。

影山一男部会長：その通りだと思う。やはり旧3町によって課題や考え方が異なる面もあると思う。市民が見た時に、旧花巻でしかやっていないことなのか、という誤解を生まないためにも、全体的に旧3町のことは触れるべきだと思うが、よろしいか。

全委員：よし。